

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	開設当初にスタッフ間で話し合い、事業所独自の理念を作成している。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は共有できるようリビング内・玄関等、常に見えるところに掲示されてる他、理念が記載されているカードをスタッフ一人ひとりが携帯しており、意識しながら日々のケアに取り組んでいる。しかし、理念の内容を当たり前として捉えてるため、具体的に理念の達成度に関して話し合いはしていない。	○	途中入社スタッフにも理念を共有し、実践できるよう携帯用カードを配布している。又、今後、全体会議やユニット会議等で定期的に話し合いを行なった方が良いと思う。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご家族には入居時に説明している。(重要事項説明書の中に記載)又、地域の中で暮らしを継続し、理解して頂けるよう広報の発行等、事業所独自の取り組みがある。しかし、地域の方々に対しては、十分な取り組みがあるとは言えない。	○	地域の方々に向けても、理念について理解して頂けるような取り組み出来れば良いと思う。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の方々への挨拶は欠かさず行っている。又、お花や野菜などを頂くこともあり、少しずつだが付き合いが出来てきている。又、利用者と一緒に、通学中の児童・学生に手を振ったりしている。しかし、利用者の重度化に伴い、付き合いが難しい点もある。	○	利用者と近くを散歩したりする機会を作って行きたい。又、一人暮らしのお年寄り等、自治会の方々にも協力して頂ければ、施設の庭を開放し、お茶会等が出来れば良いと思う。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ユニットごとに自治会に加入している。ホームの行事の際には、地域の方々が行っている踊りの会の方を招いたり、子ども会のお神輿が来た時は利用者が出向きお賽銭を寄付する等、地域の人々と交流できる機会を設けている。しかし、利用者の重度化により、外に出る交流が少なくなっているのが現状だと感じる。利用者の状態を見ながら、又、両ユニットで協力し、行事に参加出来るよう努めている。	○	利用者の状態を見ながら、地域の季節の行事に参加出来るよう取り組んでいきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	電話での相談や、ホームに来られた方への対応等は担当スタッフにより行なわれている。又、施設長が認知症介護指導者であり、認知症サポーター養成講座等を行ない、認知症高齢者への理解を広めることに貢献している。しかし、スタッフレベルでは取り組んでいない。	○	自治会活動の参加を通して、ニーズを見つけていくことが望ましいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>運営者・担当者より、自己評価・外部評価の意義に対し説明があり、個々で取り組んでいる。外部評価後は早期に改善できるよう話し合いの場を設け、今後のサービス向上に繋げている。</p>		<p>これからも改善すべきことは会議等で話し合い、サービス向上に繋げていきたいと思う。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議は定期的に設けられており、状況報告を行なっている。情報交換や意見・質問を頂き、それに対し報告や返答を行なっている。</p>		<p>家族会や消防訓練の後にすぐ反省会を開いている。家族会終了後、ご家族の意見等をまとめ、今後の課題としサービスの向上に繋げていきたいと思う。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>担当者が連携を取り、ホームの運営に関して理解を頂けるよう取り組んでいる。又、ホームの広報誌を担当者に渡し、その月の出来事に目を通して頂けるようにしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在必要性は低いですが、対応できる関係機関に相談等を行なえる体制を取っている。又、以前は成年後見制度を利用していた入居者がいたが、スタッフ個々が権利擁護に関する理解が薄いため、全体会議等で学ぶ機会を設けたほうが良いと思う。</p>	○	<p>全体会議等で勉強会を行ったり、資料を作成し、全スタッフが理解できているようにした方が良いと思う。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設け、日々ホーム内でそのようなことがないように防止に努めている。又、各ユニットにマニュアルとしていつでも閲覧できるようにしている。</p>		<p>ホーム内で虐待が見過ごされる事がないように、注意を払っている。又、日常の中で、スタッフ同士日々行なっている支援を振り返ることを念頭におき、支援を行なっている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約・解約時はゆっくりと時間を取り、質疑応答を繰り返し、現在不安なことや疑問等を聞きだせるよう配慮している。又、ご本人とご家族の関係や状況を理解するよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者からの意見や不満等があった場合はゆっくりと傾聴し、それが改善できるようスタッフ間で話し合い、解決策を考えている。言葉で気持ちを伝えられない利用者に対しては、行動や表情から感じとるよう心掛けている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月の広報誌発行で、暮らしぶりを写真やコメントを使い報告している。又、それと同封し、金銭出納台帳も送付している。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居契約時に説明、契約書にも受付窓口などを記載している。ホーム内には苦情ボックスが設置されているが、現在まで利用はなく口頭等で受け付けている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日頃より、運営者・管理者への意見・提案を自然に話せる雰囲気にある。又、朝のミーティングや全体会議・ユニット会議でも意見や提案を聞く機会を設けている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>体調変化による緊急受診や心身の変化に応じて、必要ならば規定の勤務時間を変更(延長や早出)して対応している。又、調整が出来るよう、スタッフの理解を得ている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>ミーティング等を合同で行ない、日々の変化に関して情報を共有しており、異動しても混乱のないよう配慮している。又、普段より両ユニット間で交流を持ち、馴染みの関係を築いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>運営者・管理者により、スタッフの施設外研修の予定を立てている。施設外研修では他の事業所の職員との意見交換等、それぞれが学べるような機会を設けている。そして、その研修内容は回覧で全スタッフに周知している。又、月1回の全体会議・ユニット会議で勉強会を行なっている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>近隣施設との広域連絡会等を通じ、ネットワーク作りや同業者との勉強会・交流を持ち、相互の意見等を参考にしながらそれぞれがサービスの質の向上ができるよう、取り組みをしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者は管理者と共に職員との意思疎通に心掛け、ストレスを抱えないよう気遣い、いつでも話を聞けるよう配慮している。また、日頃より声を掛け、相談できる雰囲気にある。職員は親睦会等を通じ、息抜きが出来るような会を年に数回企画している。リビングから離れた場所に喫煙所を設けており、いつでも一息つけるよう配慮されている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>失敗してもまずはスタッフの意見を聞き、同意をした上で注意をし、今後に繋がるよう指導している。又、日頃から声を掛けてくれる等、気にかけてくれていると思われる。資格取得に関しても、施設から補助がある。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に本人・ご家族と面談を行ない、それぞれの心境、不安や悩みを聞き入れ、初期に少しでも信頼関係を築けるよう努力している。利用申し込みされた後は、管理者・スタッフが本人を主体としての話し合いの場を作っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族の相談は何でも聞き、少しでも気持ちが落ち着けるよう努めている。又、その上で施設側の意向も説明し、理解して頂き、出来る限り話し合う機会を設け、情報交換を行ない、信頼・理解を得られるよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の内容から今の状態を把握し、家族の要望等も聞き入れながら、当ホームの利用だけに限らず「その時」必要な支援を見極めた上で、他施設の利用や紹介を行ない、速やかに実行できるよう努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に本人と家族に見学をして頂き、入居者とスタッフのやり取りを見て頂く等、場の雰囲気を感じて頂くよう配慮している。又、入居後一週間は家族に安心して頂けるよう、一日の様子を電話連絡で報告し、家族からの要望や気付いたことを聞き入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	その人のレベルに合わせ、必要最低限の手助けをしている。又、共に生活をするという理念のもと、日々お互いを励まし合い、助け合い、喜怒哀楽を自由に表現し、毎日の生活を送れるよう努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に安心して頂く事はもちろんのこと、ご家族も支援される側ではなく職員と一緒に本人を支えていくことが出来るよう情報交換・提供をしている。又、面会時や家族会等でも近況報告を報告をし、ご家族と共に笑い話等を出来る関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ライフヒストリーや生活歴、ご家族・ご本人の話の中から関係性を理解し、より良い関係が継続できるよう支援している。又、遠方に住まれているご家族に対しては、電話や手紙等で協力して頂き、本人が「離れているから仕方ない」という考えにならないよう配慮している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地元のお祭りや地域の行事を見に行ったり、馴染みの理美容室の利用、知人宅への訪問等、ご家族の理解と協力を得て支援するよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の性格や身体状況、関係性を把握しており、その時々々の状況を見極め、個々が孤立しないよう見守り・声掛け・介入を行なっている。又、利用者同士と一緒に食事やお茶を楽しむことができる場を作ったり、隣のユニットへ顔を出し、馴染めるよう配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後も転院先にお見舞いに行ったり、いつでも遊びに来て良いことや家族会へ誘う等、より良い付き合いを行えるよう努めている。又、その際に相談等があれば、随時承っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いや希望を把握するよう些細な言動にも注意し、出来る限り実現できるよう努力している。困難な場合には、まずはスタッフで話し合い、ご家族に相談・確認し、本人の体調をも考慮しながら本人の思いを組み取るよう努め、本人本位で検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居申し込みの時点でライフヒストリーを本人、もしくはご家族に記入して頂き、入居決定した場合にもセンター方式シートに情報を記入して頂いている。又、本人やご家族との会話の中から得た情報も書き留めている。入居前の面会時に、ケアマネージャー等からも情報を頂いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々、職員間での情報交換を密に行ない、変化のある際には記録に残し、現状を総合的に把握できるよう工夫している。又、個別のアセスメントシートに記録し、一人ひとりの一日の生活状況が情報としてスタッフ間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日常から状態を観察し、又、本人やご家族の意向を確認し、毎月のユニット会議で意見交換・話し合いを行なっている。時には医療機関に相談しながら、利用者本位の計画が実行されるよう介護支援専門員を中心に、チームで介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	1ヶ月に1度見直し、3ヶ月に1度総合評価をし、その時の状態に合った介護計画を作成している。又、入院等で心身の状態に変化がある際には、本人・ご家族と相談し、意見を聞いたり医療機関と連携を取りながら、現状に即した介護計画を再検討し、作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子・気づき等を個別アセスメントシートに記録し、職員間で情報を共有しながら実践している。又、ケアの中で気付いた事はすぐ話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人の言動・ご家族の面会時や電話対応のときの要望やおかれている状況等を配慮し、今の状況に合った支援が出来るよう行なっている。これまでのかかりつけ医に受診したり、行きつけの理美容室を利用するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察・消防等の協力を得られるような体制となっており、避難訓練の際は協力をしながら行なう時もある。又、行事の際は、民生委員や自治会長に案内書を出し、参加して頂いている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望を顧慮し、スタッフと共にケアマネージャーと面会を行う事もある。又、訪問理美容サービスを利用されている方もいる。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在権利擁護等を必要としている対象者はいなく、又、ボランティアの要請等で地域包括センターとの兼ね合いはあるが、協働はしていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時、管理者と本人・ご家族と話し合い、通院状況を把握し、本人・ご家族の希望を大切に、納得が得られた医療機関に受診している。又、ホームドクターの協力体制も構築されており、緊急時には相談・往診も可能な状態にある。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医・ホームドクターとの関係性を築き、相談・助言が得られる状態にある。又、地域の精神科医とも関係を築きながら、相談・診察を行なっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤職員で看護師が1名確保されており、看護師を中心に地域の医療機関と連携を取り、日々の健康管理がされている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	出来る限り、ほぼ毎日馴染みの職員がお見舞いに行き、ご本人が安心できるよう努めている。その際、ご家族にも報告をしている。又、入院計画や治療方針についてはご家族と共に検討し、早期退院できるよう努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期の在り方、当ホームで出来る範囲のケアの在り方を入居時に説明している。又、入居者の状態等を考慮し、出来る限り早い段階で、医師、家族と話し合いの場をもち方針を共有している。	○	出来ること・出来ないことを明確にし、方針を共有できるよう取り組んでいきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度、終末期の入居者に対し、事業所としての支援の在り方、出来ることを見極め、医師にも相談し、助言を頂きながらチームとしての支援に取り組んでいる。又、重度化した際はスタッフ間で情報交換をし、今後どうすべきかを検討している。	○	勉強会や研修会等に参加して、学んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>施設長・ホーム長・ご家族と十分に話し合い、本人が住み替えによるダメージを受けないよう努めている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>その人の生まれ育った環境や性格等を考慮し、又、個々の人格を尊重し、一人ひとりの心身の状態に合わせた声掛け・話し方をしている。記録等は個人情報外部に漏れないよう、徹底した管理をするように努めている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が思いや希望を表すことが出来るよう、又、その人の能力を考慮し、声を掛け、自己決定しながら生活できるようゆとりを持って支援している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>食事やおやつは大体の時間は決まっているが、その他は時間の決まりはなく、本人の希望を重視し、出来る限り希望に添えるよう努力している。しかし、実現出来ないこともある。</p>	○	<p>外出の機会など、もっと積極的に取り組んでいきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自らはなえる方は見守りを行っており、他は個々の能力に応じ、洋服選びの声掛け・化粧の支援を行っている。理美容室は馴染みのところへ行ったり、本人の希望するところへ行くようにしている。外出が困難な方は出張理美容を利用して頂き、それぞれのおしゃれの支援を行っている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>季節に合わせての食事、誕生日やお正月等、行事食を提供することで食事が常に楽しみなものになるよう工夫している。又、能力や体調を考慮し、食材を切ったり、盛り付けをしたり、茶わん洗いをする等、スタッフと会話を持ちながら行っている。食事はスタッフも一緒に座り、会話を楽しみながら入居者と同じものを食べている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	特定の疾患がない限り、飲酒・喫煙は楽しめる状況にあるが、現在対象者はいない。おやつに関しても、疾患による制限がない限りスタッフ見守りの下、本人管理でいつでも楽しめるようになっている。又、本人が希望した際は一緒に買いに行き、何をどれくらい買ったかをだけ確認する。ご家族が持ってきて下さった場合も、同様の対応をしている。10時と15時のおやつの中には個々に何が飲みたいかを聞いたりし、本人の好きなものを提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人の状況に合わせて紙パンツやパットを使用しているが、一人ひとりの排泄パターンや水分量、時間等を考慮し、又、仕草や表情から見極め、失敗がないようトイレ誘導している。なかなか出ない時にはホットパックを使用したり、腹部マッサージや水を流す音で排泄につながるよう工夫している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間は決まっておらず、希望時はいつでも入浴出来るようにしているが、安全を第一に考えながら対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝・消灯時間は決めておらず、一人ひとりが就寝前までテレビをみたり、本を読んだり、リビングで過ごしたりしている。それぞれの生活習慣を把握し、見守り・声掛け・介助を行なっている。夜間眠れない方については、添い寝をしたり、湯たんぽを入れたり、体が温まるような飲み物を提供している。それでも眠れなかった方には、日中、自室やリビングのソファー等で休んで頂き、睡眠時間を補って頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴や能力を考慮し、掃除・洗濯・台所手伝い等を手伝って頂いている。又、テレビやビデオをみたり、カラオケをしたり、散歩や買い物にも行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の能力に応じ、ご家族に相談・了承の下、自ら所持して頂き、買い物等で使う事が出来るよう支援している。出納帳を用意しており、スタッフと一緒に確認し、出納を記載している。又、お金を持参しないと不安が生じる方に対しては、ご家族と相談し、自ら所持出来るよう努めている。その際、スタッフはこまめに金銭を確認している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望時には天候・身体状態等を考慮し、散歩や買い物等ホームの外に出掛けられるよう支援している。希望を訴えることが出来ない方に関してはこちらから声を掛け、外出の機会を作っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ごと相談し、外出の機会を作るよう努めているが、積極的には行なわれていない。しかし、お盆やお正月、冠婚葬祭等には外泊・外出が出来るよう家族と相談し、実行している。又、本人との日常会話の中から要望などを汲み取り、それをご家族と相談し、一緒に外出できる機会作りをしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	事前にご家族に電話連絡可能時間を聞き、希望時には電話を掛けている。その際、初めにスタッフが来て、ご家族の了承を得てから本人に繋ぐよう配慮している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間に制限はなく、24時間随時可能なことをご家族に伝えている。又、面会時は居室やリビング等好きな場所で過ごせるよう配慮し、本人と一緒にお茶を飲んだり、おしゃべりしたりと、ゆっくり過ごして頂いている。玄関ではオルゴールの曲が流れており、気軽に訪問して頂けるようにしている。又、観葉植物等を置き、心地よく過ごせるよう工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は実際に行なわれておらず、会議などで施設長より拘束を行なわないケアについて指導を受けている。又、一人ひとりが「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解している。	○	再度確認できるよう、勉強会を開いていきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中はどこも施錠はせず、自由に外へ行けるようになっている。玄関の戸等には鈴が付いており、開けると気付けるよう工夫し、入居者の居場所や行動を確認できるようになっている。夜間は防犯の為、玄関の施錠はしている。各居室も施錠が出来る構造となっているが、緊急時はスタッフが解錠できるようスペアキーがある。居室の施錠は、入居者個々で行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者のプライバシーに配慮しながら、監視ではなくさりげなく見守り、所在・安全確認を行なっている。日中はスタッフ同士が声を掛け合い、入居者の居場所の把握、関係を持ったスタッフより入居者に変化があればその都度引継ぎ・相談を行なっている。夜間は一つ一つの音に反応し、変化がないか確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	施設側の注意の必要な備品(刃物・針・薬品等)は保管場所を取り決めて、危険を防ぐようにしている。入居者から要望があれば貸し出しを行ない、使用中はさりげなく見守ったり、共に使用する等工夫している。又、その人の状態を考慮し、危険と思われるものについてはスタッフ側で預かり、管理している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止の為の知識を全体会議等で学ぶ機会を作っている。その日の一人ひとりの状態を見極め、スタッフが連携を取り、さりげなく見守りを行なっている。何か起こった際には、事故報告書やヒヤリ・ハット報告書を作成し、全スタッフに周知・話し合いを行ない、再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各ユニットに緊急時マニュアルを掲げている。又、2年に1度普通救命講習を受講している。全体会議でも緊急時の対処法の勉強会を開く機会も設けている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防職員立会いの下、避難訓練を行なっている。又、防火管理者が講習等に参加したり、運営推進会議でも実施したり、日頃より地域の人々の協力を得られるよう努力している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時に近況報告を行ない、その時々々の状態や今後の状態を理解して頂くよう説明している。起こりうる事実を隠さず説明し、理解・協力が得られるよう伝えている。又、状態に応じ、ご家族に集まって頂き、今の状態等を説明し、今後の対応等を話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食品衛生管理者がおり、衛生状態の管理を行なっている。調理器具は使用後必ず洗浄・消毒をしている。食材購入時は冷蔵庫を整理・清掃しながら収納し、古い物から使用するようになっている。又、温度管理にも十分配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先には花壇やベンチがあり、暖かい雰囲気の中で安心できる作りである。又、ほうきやちりとり等を置き、普通の家庭と同じような感じを出している。しかし、たまに清掃が行き届いてないように思える。玄関にはオルゴールが流れており、ゆったりとした空間になるよう配置している。		毎日の日課として、中の清掃と共に行なう。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関は木目を基調とした暖かい雰囲気、トイレ・浴室はリビングより死角になっており、羞恥心に配慮している。共有の空間は、不快を感じさせない照明器具が使用されており、又、キッチン是对面キッチンになっており、料理を作る音等が聞こえるようになっている。これまでの写真の掲示や催しに即した装飾等、季節を感じられるように工夫している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングはいくつかの空間が出来るよう、ソファや食卓テーブルの配置に考慮している。喫煙所は死角スペースとなっており、又、二階の踊り場にもソファを用意しており、人の気配を感じながらでも一人になれる空間となっている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々が以前から使用していた家具や布団・カーテン等、馴染みのある物を搬入しており、環境の変化を少なくし、居心地良く、安心して生活が送れるよう工夫されている。又、ご家族の写真等を飾る等もしている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	リビング・廊下に常に空気清浄機を使用している。又、天候を考慮し、空気よどみがない様窓の開閉で換気している。リビング・廊下・各部屋には温度計と湿度計を設置し、気温や湿度に注意し、暖房や加湿器の調整をしている。入居者にはその時の体調等を考慮し、カーディガンを着て頂いたり、ひざ掛けを掛けて頂いたりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>建物内部はバリアフリーの作りになっており、又、廊下や階段等必要なところには手すりを設置しており、日常生活で残存機能を活かしながら、且つ、安全に生活が送れる環境にある。階段には踊り場があり、見た目だけで疲労感を与えない様配慮している。又、エレベーターも設置しており、状態に合わせ使用して頂いている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p> <p>各部屋にはそれぞれ好みの表札を掲げている。分からない方に対しては、さりげなく場所を誘導したりし、プライバシーに配慮しながら声掛けを行なっている。夜間の為に、トイレには誘導灯が設置しており、人間の持つ明順応を利用する工夫をしている。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p> <p>中庭には畑、ベランダには物干しがあり、個々の活動に合わせスタッフと一緒に利用している。又、裏庭からは遊歩道に続いており、安全に活動が出来たり、通学中の学生さん達と交流が持てるようになっている。中庭では犬も飼っており、ふれあいも出来る。</p>		